

有限会社渋田産業（厚沢部町）

1986年からまいたけの人工栽培による生産を開始。まいたけのほか、キクラゲの菌床栽培やきのこの加工品の販売を行っており、2019年からは函館市に工場を設立し乾燥キノコの加工・販売を行う等、道南地域を代表する企業のひとつです。

<http://www.ezomaitake.com>

ゼロカーボンの取組

○廃棄が必要な菌床をバイオマスボイラーの燃料に

きのこの栽培工場に木質バイオマスボイラーを設置し、使用済みの菌床や地域の間伐残材を燃料として使用することで、廃棄物処理費、燃料費、CO2排出量の削減を同時達成しています。



北海道産のおがくずを固めて菌床をつくり、まいたけやキクラゲを栽培



まいたけは1回、キクラゲは数回栽培すると、菌床が使用できなくなり、廃棄が必要

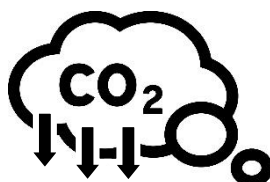
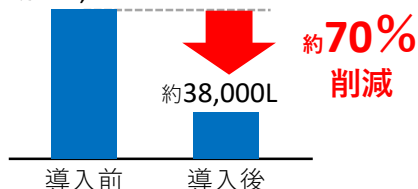
廃棄が必要な菌床や間伐残材をバイオマスボイラーの燃料として使用し、菌床栽培の温度を管理

地域の森林間伐残材をオガ粉にして利用

化石燃料の使用量が大幅に減りコストとCO2削減を同時達成
(次ページの温泉熱利用効果も含む)

【CO2削減量】

A重油の年間使用量
約122,000L



約**228t-CO₂**



約**756万円**

※A重油：90円/Lとして計算

特に力を入れていること 工夫している点

○温泉の利用

温泉資源が豊富な地域特性を活かし、江差工場ではバイオマスボイラーに加えて、温泉により栽培に適した温度や湿度を管理しています。

**温泉熱とバイオマスボイラーだけで、
冬期間のきのこ栽培に必要な暖房の大部分を確保！**



温泉を配管に通して
室温を管理



【受賞歴】

2013年、2016年
道水産林務部主催
きのこ品評会 優秀賞受賞

今後の目標・取組

環境配慮に向けた取組はコスト増となるものが多く、これまでプラスチック削減などに取り組んできましたが、近年の価格高騰で実施を断念せざるを得ないこともありました。

しかしながら、バイオマスボイラーのようにコスト削減も可能な取組もあり、未来の環境を守るために、今後も引き続きゼロカーボンに向けた取組を行っていきます。